

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ことばの教室ことのは2号館		公表日		令和8年 4月 30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	0	活動や訓練の目的に応じて部屋が分かれており、児童もそれぞれ好きな活動や落ち着く空間を求めて移動もでき楽しめている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	1	丁寧な個別対応も想定した人員配置をしており、基本的には十分であると考えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	1	児童が理解しやすい様にイラストや写真、記号などを使い、工夫している。バリアフリー対策としては、階段に手すりを設置。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	2	活動内容や目的に合わせて、活動の部屋を分けている。整理棚も増設しおもちゃも定着してきている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0	活動時間は基本個別の部屋は児童の机上訓練等で使用している。それ以外のタイミングで使用は可能。事務室でも職員の許可や対応できるタイミングであれば入室は可能で職員との会話や活動が可能になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	1	問題や気になることがあれば、職員会議等で振り返りや改善点を話し合っている。	適宜職員ミーティングを行なっているが、PDCAがしっかりできていないのでそこも丁寧に取り組んでいきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	毎年のこの自己評価にて保護者からの意見を参考にしている。また、保護者からご意見としていただいた際も会議を実施し改善に取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	2	毎年のこの自己評価にて保護者からの意見を参考にしている。また、保護者からご意見としていただいた際も会議を実施し改善に取り組んでいる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	5		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0	毎年キャリアプランにて職員のキャリアアップの意向を把握し、関連する研修情報があればその職員へ情報提供を行なっている。また、法人内でもZOOM等で研修を開催したりなど研修には力を入れている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0	支援プログラムを作成し、公式LINEにて保護者へ配布。また教室の壁に掲示している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	0	日々の訓練後の保護者への申し送り時の情報共有やモニタリング等の会議でのニーズ把握や課題を確認し支援計画作成時の会議に反映させている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	支援計画作成時には、職員全体が集うタイミングで支援計画案に対し意見等を出し合い、確認している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	日々の活動の振り返りの中で様子や成長している面や課題などを共有及び記録し、次の活動に活かすようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	2	K式発達検査やその他の検査等を使用し把握確認している。	

16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	0	支援計画の中に左記の項目の狙い等を踏まえ支援計画の中に盛り込む様になっている。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	児童の活動の振り返りの中で、効果的な遊びについて職員間で話し合っている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	日々の活動後のミーティングにて、今日の活動の振り返りを行い、みんなで新たなアイデアなどを検討し、翌日以降のプログラムに取り入れている。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11	0	児童それぞれの好きな活動や課題を考慮して療育活動を展開している。放デイでは、できるだけ個別集団より、小集団（2～4人程度）活動で活動できる中身や種類を発展、工夫を試みている。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	1	前日に予定表を作成し、役割分担を共有している。また適宜支援開始前にも確認を行なっている。また、その日の児童の状態に応じて臨機応援に変更もしている。他にも活動の振り返りや反省点等を次回の役割分担決めに反映もさせている。	前日に作成できない時は業務の流れの中で職員間で確認を行なっている。できる限り、事前での打ち合わせができるよう準備していく。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0	活動後に30分程度の振り返りの時間を設定し、児童の様子等の情報共有を行なっている。また、その振り返りの内容を簡易的な議事録をLINEにて共有している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0	個別記録については、その日担当の職員が行っている。また、複数人に対応した際も、それぞれの職員から情報を集め記録し、その後の支援に活かすようにしている。	日々の活動記録等をゆっくりまとめる時間が取れない。また、定期的に目標設定を話したりまとめることが難しい。事務日等を設定して、記録の点検や支援目標を定期的実施していけるように改善していきたい。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0	相談員や保育園、他事業所などが参加するモニタリング会議に出席し、その会議での内容を全体へ共有。また、個別支援計画更新のタイミングで評価シートを使って、計画書に反映させている。	目標設定を話したりまとめることに追われる印象。定期的に事務日等を設定して、記録の点検や支援目標を作成できるように改善していきたい。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	9	2		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	1		
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	主に児童発達支援管理責任者又は言語聴覚士が参加している。参加が難しい場合は、情報提供書等で活動の様子を情報提供している。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	2	必要に応じて、モニタリング会議等で情報共有を行い、このほかでの支援の内容等を確認している。	
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11	0	基本的には保護者を通して学校側の情報を確認共有している。しかし、保護者からの情報不足等や学校側の様子も情報が足りない場合は、担任の教諭などと連携をとり、支援の方向性などについても共有を図るタイミング等につなげている。	
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	0	未就学の年齢から利用していた場合は、就学のタイミングで関係者会議を開いてもらい情報共有や相互理解に努めている。就学後に利用開始した児童については、相談員からや併用している他事業所から情報収集し情報共有や児童の内面理解に繋げている。	

関係機関や保護者との連携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	4	概ね小学校や中学校卒業のタイミングで多くの児童は卒業している。そのため障害福祉サービス事業所へ移行するタイミングでの情報提供は近年ほとんどない状況である。	過去には放課後デイサービスから障害福祉サービス事業所へ移行するケースがあった。今後、同様なケースが発生すれば、本人の移行期支援として積極的に情報提供を行う予定。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	4	助言等を求めたりなどする機会は少ないが、児童発達支援センター企画の研修等に参加し、いつでも連携を図れるよう関係作りができる様意識している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	2	児童クラブや児童館等と公式の交流は行っていないが、地域の公園や児童館のスペースをお借りすることはあるため、時間や空間を共有する機会は度々ある。その際、職員が地域の子どもたちに声をかけることで一緒に交流したり、合同で遊べる雰囲気作りなどの働きかけはいつも行っている。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	8	3		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11	0	毎回の利用後の申し送り時に、保護者とはその日の活動の様子以外にも現状の持っている強みや力、また本児に力をつけてもらいたい課題などを情報共有をしている。	対面での申し送りが難しい場合は、電話や公式LINEを通じて情報の共有を図れるよう工夫している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	2	ここのは主催のペアレントトレーニングなどを開催することではなく、日々の活動の申し送り時に保護者に対して、児童対応の方法や視点などを助言アドバイスしている。また、外部での保護者向け講演会の情報があれば、LINE等で保護者へ告知をしている。	保護者に対して、どのような形態でのペアレントトレーニングを望んでいるのかアンケート調査などを行い、保護者が参加しやすい形での講習会を企画検討してみたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	利用契約時にそれらの説明を行なっている。また、変更等があれば適宜機会を設けて説明を行なっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	日々対面での申し送りの中で、適宜保護者のニーズや意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	0	保護者の来所時に支援計画を説明し同意を得て署名等を行なってもらっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	日々の申し送りの中で相談に応じ、助言などを行なっている。また、ゆっくり相談の希望がある場合は、時間を確保する形の面談を行なっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	3	これまで保護者会を開催したことなかったが、今年度2月に初の保護者会を開催。次年度以降も定例で開催できるよう年次計画などを立てていきたい。	今年初の保護者会を実施。初回ということもあり、少人数での保護者会になった。次回以降はできる限り多くの保護者が参加してもらえるよう開催実施にあたり検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	保護者より苦情等のご意見をいただいた際には、管理者から改めてご意見の内容を確認させてもらい、迅速に対応するよう心がけている。	ご意見をいただいた際には、会社全体に情報を共有し、他教室でも問題となる対応がないかチェック等し改善に取り組む様になっている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	姉妹教室全体でホームページやブログを開設しており、その中で行事や活動の様子等を記事の中で発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0	個人情報については、基本事務所内での使用であったり、書類はシュレッターで廃棄したりなど取り扱いについては十分注意を払っている。	
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0	児童はもちろん、保護者さんに合わせ情報伝達内容がしっかりとスムーズに伝わる様、お伝えするタイミングや方法なども配慮している。		

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	2	行事に地域住民を招待することは難しいが、教室の存在や活動の様子などを認知してもらうように積極的な挨拶などを含め交流している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	1	各種マニュアルを作成し職員や家族等に周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	2	避難訓練は年に2回実施している。	実施に対しての保護者への告知や周知が足りないため、今年度はそこを改善していきたいと考えている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	1	事前に保護者より持病やてんかん・アレルギーの有無について確認している。必要な対応についても適宜職員全体で周知確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	3	食物アレルギーなどの情報や対応をいつでも確認できるようリスト化したり、保護者より主治医からの注意事項などの聞き取りを行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	1	安全計画を作成・更新を行い、定期的に点検を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	4	安全計画を教室内に掲示を行い周知を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0	ヒヤリハットの事例をファイリングし、教室全体で事故になり得るケースの再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0	虐待防止のための研修を定期的に行うほか、会社全体で虐待防止委員会や対策チームを発足し会社全体で虐待防止に取り組んでいる。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	1	やむを得ず、身体拘束を行う場面が想定される児童については、個別支援計画に記載し、保護者に対しても事前説明を行なっている。		